

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	10	施策名	生活環境の保全	
小施策コード	10-2	小施策名	公害の防止	
小施策 主管課等コード	051000	小施策 主管課等名	環境企画課	
評価責任者名	嵯峨 秀俊		内線番号	8410
評価シート作成者名	千葉 信幸		内線番号	8411

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	本市の生活環境は、概ね良好な状況にあるが、身近な生活環境を良好に保ち続けるために、大気、水質、騒音、振動などの監視を継続して行い、公害発生を未然に防止する必要がある。
取組の方向性	身近な生活環境が良好に保たれ、環境への負荷が取り除かれるように、大気、水質、騒音、振動などの環境監視を行い、公害を防止する。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	環境負荷、市民・事業者
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	環境負荷が取り除かれる

## Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていることを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 大気環境基準適合率 (適合件数/測定件数) (↑)	%	98.8	97.1	100.0	100.0
B 水質環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数) (↑)	%	98.1	96.3	100.0	100.0
C 騒音環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数) (↑)	%	91.3	86.7	96.0	100.0
D 振動環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数) (→)	%	100.0	100.0	100.0	100.0

### Step 3 市民ニーズの把握

市民アンケート調査によると盛岡はごみの散乱や公害が少なく、清潔できれいなまちだと思いと答えた市民の割合が 79.1%であることから、より一層の施策の推進が求められている。

### Step 4 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	事業者に対する公害防止の啓発や適正な届出の指導を行う。	20
	国・県・ 他自治体	適正な法規制を推進し、全国・全県的な趨勢や動向に関する情報提供を行う。	20
	市民・ NPO	環境保全に関する身近な取組みを実践する。	30
	企業・ その他	公害の防止を徹底する。	30

#### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

指導すべき事業者数に大きな変動がないと思われるため現状維持とするもの。

### Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

#### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

##### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 大気、水質、騒音・振動とも環境基準適合率が高い水準で推移している。
- ・ 公害防止対策協議会及び公害監視委員会からの指導助言等により、排ガス基準値順守継続日数が 2,000 日を越え、地域住民との公害防止協定を継続して守ることができた。

##### (2) 成果をあげた要因

- ・ 大気については、測定局 2 地点において年間を通じて大気汚染物質を測定しており、一部環境基準の超過がみられたが概ね良好な状況であった。
- ・ 水質については、公共用水域 28 地点において年間を通じて水質を調査しており、一部環境基準の超過がみられたが概ね良好な状況であった。
- ・ 騒音・振動については、一般地域、道路に面する地域、高速交通沿線の騒音・振動を測定しており、概ね良好な状況であった。

- ・ 盛岡市クリーンセンター公害防止対策協議会及び盛岡市クリーンセンター公害監視委員会からの指導助言等に対し、必要な予算措置を含め可能な限り迅速に対応することができたため。

**(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）**

**2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定**

**(1) 小施策における現状の問題点**

- ・ 大気については、一部環境基準の超過（光化学オキシダント、微小粒子状物質 PM2.5）がみられる。
- ・ 水質についても、一部環境基準の超過（河川における大腸菌群）がみられる。

**(2) 現状の問題点が生じている原因**

複合的で広域的な要因によるものと考えられ、原因が特定できていない。

**(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題**

現在実施していないPM2.5の成分分析を実施することで、汚染物質の発生源を推定する。

**3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）**

PM2.5の成分分析を実施する。

**Step 6 小施策と構成事業の関係性**

**1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業**

該当事業なし。

**2 1で記載した事業についてその理由**

**3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）**